

令和8年度

熊本大学文学部入学試験問題（後期日程）

小 論 文

試験時間 120分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、開いてはいけません。
2. 各解答用紙に受験番号を必ず記入してください。
3. 問題用紙が4枚、解答用紙が4枚、下書き用紙が4枚あります。
試験開始後、落丁・乱丁及び印刷の不鮮明な箇所などがあれば、
手を挙げて監督者に知らせてください。
4. 解答は、必ず解答用紙の指定された場所に記入してください。
5. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
6. 試験終了後、問題用紙と下書き用紙は持ち帰ってください。

□

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権保護の観点から、
問題文は掲載しません。

著作権保護の観点から、
問題文は掲載しません。

(久米順子「ほんの少し度数が上がると」——美術館ができること『ピエリア』第16号より。原文を改めた箇所がある。)

※ 物故 …… 死去した

※ アナロジー …… 類似・類推

(問) 芸術と社会問題との関係について、課題文で取り上げられた事例をもちいながら、

六〇〇字以内であなたの考えを述べなさい。

2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権保護の観点から、
問題文は掲載しません。

著作権保護の観点から、
問題文は掲載しません。

(松村圭一郎 『うしろめたさの人類学』による。原文を改めた箇所がある。)

(問) 日本の生活に戻った著者は、自分のなかに生じる感情の動きに「ある種の『いびつさ』『を感じたと述べている。どうしてそう感じたのか。著者の感情に対する理解をふまえて、あなた自身の考えを八〇〇字以内で述べなさい。